

広瀬正『エロス』のメモ

takaidos

memo

広瀬正(1924～1972)。

1971年発刊。

パラレルワールドもの。

NHKドラマ『もしもあの時』の原作。

物語は昭和46年、ベテラン歌手・橘百合子(赤井みつ子)の乗った車が盲目の片桐博士を跳ねるところから始まる。

編集者の坪川菜穂子は橘百合子に「もしもあのとき」というインタビューをしていた。

百合子は歌手をしていなかったら、ヌードモデルになっていた、という過去を回想する。

ストーリーは百合子と片桐博士の会話と、歌手・百合子にならなかったみつ子の話が交互に記述される形で進行する。

<目次>

第1章 現在

第2章 過去

第3章 現在

第4章 もう一つの過去

第5章 現在

第6章 過去

第7章 現在

第8章 過去

第9章 現在

第10章 もう一つの過去

第11章 現在

第12章 もう一つの過去

第13章 現在

第14章 もう一つの過去

第15章 現在

第16章 もう一つの過去

第17章 現在

参考文献

解説/小松左京

<登場人物>

片桐慎一:両親が米国駐在の外交官。帝大生。

赤井みつ子:橘百合子(歌手)/片桐みつ子(慎一の妻)。モデルは淡谷のり子。

林田:慎一の父親の知人。慎一が間借りしていた。

叔父:みつ子の叔父。

叔母:みつ子の叔母。

守:みつ子の従弟。

坪川菜穂子:昭和16年生まれ。30歳。⇔片桐菜穂子。

小坂安雄:片桐慎一の友人の息子。

小坂玉代:安雄の母。

堀辰雄:『菜穂子』の著者。

広瀬正(本人):中学生。

<あらすじ>

昭和46年、橘百合子(赤井みつ子)。

女性記者の坪川が大物歌手の橘百合子に「もしもあのとき」という企画でインタビューを始める。

橘百合子こと赤井みつ子は、岩手から上京して来た昭和8年12月23日から過去を振り返る。

昭和8年(1933年)春には東北三陸地方を地震と大津波が襲い多くの被害が出ていた。

百合子は歌手になっていなければヌードモデルになっていた、と明かす。

最後のエンディングも秀逸。

<メモ>

時代背景、情景を味わえる。

JASRAC 出9651308-601。